

6月末の日経配当指数、14%上昇の95円31銭

日本経済新聞社が公表する日経平均・配当指数（2011年）の値は、6月30日で95円31銭になった。日経平均株価の構成銘柄数の9割近くを占める3月決算会社が株主総会を終え2011年3月期末の配当額が確定、指数に反映された。昨年6月末の日経配当指数（2010年）の水準（83円31銭）と比べ14%の上昇で、主要企業が前3月期末には配当の支払いを積極化したことを示している。昨年と比べた指数値の上昇に最も寄与したのは、東京エレクトロン（一株配当は前期比9.5倍）、続いてファナック（同2.3倍）だった。

6月末時点の日経配当指数の値を2004年以降と比較すると、指数値が最も大きかったのは、2008年の109円90銭で、今年はその87%まで回復している。これまで各年の指数値の6月末の水準は、翌年4月初めに確定するその年の指数最終値のほぼ半分に達している。2008年指数の最終値は219円73銭だった。

日経配当指数は暦年ベースの集計のため、2011年4月～9月期の配当（中間配当）は今秋に2011年の指数に反映されるが、2012年3月期末の配当は来年6月の株主総会後に、2012年指数に加わることになる。